様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ３０ 年　 ６ 月　 ８ 日現在

機関番号：３４３１５
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2014～2017
課題番号：２６３７０４８２

研究課題名（和文）社会文化理論を用いた第二言語学術リテラシーの発達と異文化能力習得過程の研究

研究課題名（英文）Exploring the developmental processes of L2 academic literacy and intercultural competence using sociocultural theories

研究代表者
根本　浩行（Nemoto, Hiroyuki）

立命館大学・文学部・教授

研究者番号：４０４５２０９９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、短期留学プログラムを経て英語圏の大学に一年間交換留学をした学生を対象に縦断的な調査を行い、第二言語学術リテラシーと異文化能力の発達過程およびアイデンティティ変容過程を考察した。また、交換留学から帰国後の学術能力の向上や就職活動への取り組み、そして就職後の社会適応に関する追跡調査を行った。その結果、他者とのアイデンティティ交渉に取り組みつつ英語・母語リテラシーと異文化能力を高めていくことで、異文化接触現象を批判的に考察し肯定的に受け入れる能力を身につけていくことが判明し、このような異文化接触の管理が社会的場面でのリテラシー適用やアイデンティティ形成の促進にも繋がることが示された。

研究成果の概要（英文）：Focusing on Japanese university students who participated in an intensive study abroad program and subsequently undertook a one-academic-year overseas study as exchange students, this study examined the processes in which they developed L2 academic literacy and intercultural competence as well as transformed their identities. A further investigation was made about the ways they managed academic participation and job hunting activities back in their home university in Japan and then socialized themselves into their professions after graduating from a university. The findings suggest that students' development of academic literacy, intercultural competence, and identities enables them to evaluate various linguistic and cultural contact phenomena critically and deal with them constructively. This study also indicates that such management of cultural contact contributes to their applying their own literacy in professional situations and developing situated identities.

研究分野：社会言語学

キーワード：社会文化理論　第二言語リテラシー　異文化能力　アイデンティティ

１．研究開始当初の背景

近年、第二言語習得が言語形態としてだけではなく社会的行動の一部として考察されるようになるにつれ、リテラシーとは文脈と融合したものであり、人と人とのインターアクション活動の中で身に付くものという視座が強まってきた（cf. Hyland, 2009）。また、異文化間の異なる慣習および他者との力関係を調停する能力として研究が進められている「異文化能力」(intercultural competence)も、文化そのものに着目するというよりはむしろ異文化接触場面での多種多様な個人間の位置取りと交渉に密接に関わる能力として考えられてきている(cf. Byram, 2008; Dervin, 2011)。このように、かつては特定の状況とは切り離された汎用的能力として考察されることが多かったリテラシーおよび異文化能力の発達は、その汎用性を見出すためにはまず、発信された言語そのものだけを研究するのではなく、状況に埋め込まれた言語習得過程で起こる言語使用者個人の内的および社会文化的活動を分析することが先決であるとの見解が主流となってきた。

このような傾向により、第二言語習得研究では、外的要因と心的表象の考察を可能にする「社会文化理論(sociocultural theories)」を用いて移民者の異文化適応や留学生の学術参加などを分析する質的研究の数が増え、特に社会文化理論の中核をなす「言語の社会化」(language socialization)(cf. Duff, 2010)は主に北米の研究者たちによって学術リテラシー習得の調査にも応用されはじめた。しかし、本研究開始当初は学術リテラシーに関する包括的な社会文化的研究はなされておらず、社会文化理論の概念的枠組みを今後発展させていく上でさらなる実証研究が必要であった。

２．研究の目的

上記の研究動向を踏まえた上で、本研究は、短期留学プログラムを経て一年間交換留学をする日本人大学生を縦断的に調査し、短期留学中、交換留学中、留学後の第二言語学術リテラシーと異文化能力の発達過程およびアイデンティティ変容過程を社会文化的視座から検証すべく着想された。

研究開始当初の具体的な目的は以下のとおりである。まず、オーストラリアのモナシュ大学およびニューイングランド大学と共同し、オンライン異文化交流プロジェクトとタスク型学習(task-based language learning)を融合させた「コンピュータを媒介としたタスク型コミュニケーション(task-based computer-mediated communication)」(以下 TB-CMC)の組織化を図り、この TB-CMC を短期留学準備プログラムに導入することで、オンライン第二言語実践ネットワークを形成させ、英語学術リテラシーと異文化能力の基礎固めを行う。短期留学参加学生はモナシュ大学に併設された語学学校の学術英語養成コースで 5 週間学び、留学最後に IELTS を受験することで学習の到達度を測る。また、短期留学プログラム自体にもタスク型学習を取り入れ、参加学生は自らの異文化適応を分析し、一週間の主な活動内容とその自己評価を記した自己内省レポートを滞在期間中毎週作成し、帰国後英語論述課題としてまとめる。

この短期留学中は、短期留学準備期間に TB-CMC プロジェクトで培った基礎的なリテラシーと異文化能力をどのように向上させていくかを「個々の実践ネットワーク(individual networks of practice)」（Zappa-Hollman, 2007）の拡大と「実践コミュニティ(community of practice)」(Lave & Wenger, 1991)内の言語使用活動に照らし合わせて考察する。また、第二言語使用者としてのアイデンティティ交渉を分析する。

さらに、このプロジェクト型短期留学プログラムを経て英語圏の大学に一年間交換留学をする学生を対象とした調査を実施する。この段階では、短期留学プログラムで習得した第二言語学術リテラシー、異文化能力およびネットワーク形成能力が異文化学術コミュニティにおける正統的周辺参加(legitimate peripheral participation)(Lave & Wenger, 1991)に与える影響を分析し、アイデンティティ変容過程との関連性も考察する。帰国後は、卒業研究と就職活動でどのように学術リテラシーと異文化能力を活用するか、卒業後新社会人としてそれぞれの職業へどのように適応していくかを追跡調査する。

３．研究の方法

平成 26 年度は関連文献および資料を収集・分析し、本研究の研究枠組みの構築を行った。また、短期留学プログラムと派遣留学を経験した卒業生が中学校・高等学校の新任英語教員として社会適応していくプロセスを調査するパイロットスタディを実施し、留学システムとキャリア形成の整合性を演繹的に分析していく上で有益なデータを入手した。さらに、国際応用言語学会、アメリカ応用言語学会などで研究の途中経過を発表し、研究枠組みの妥当性、データ収集方法・分析方法の確認を行った。

平成 27 年度は、TB-CMC プロジェクトの点検・修正を行い、プロジェクト型短期留学プログラムに参加する学生へのアンケートおよびケーススタディをもとに質的・量的データを収集した。また、短期留学を経て交換留学をしている学生のケーススタディを実施し、記述式アンケート、ダイアリースタディおよびフォローアップインタビューを用いて第二言語学術リテラシー・異文化能力の発達過程とアイデンティティ変容の関連性を中心に調査を進めた。第 4 回国際言語管理シンポジウムと、オーストラリア・ニュージー

ランド合同応用言語学会にて本研究の途中経過を発表し、応用言語学研究を専門とする国内外の研究者との話し合いの場を持ち、研究内容の具体化に努めた。

平成 28 年度は、一年間の交換留学を終え、帰国した学生を対象にケーススタディを実施し、平成 26、27 年度に収集したデータと照らし合わせながら、異文化適応経験が学術能力の促進とキャリア形成に及ぼす影響を分析した。特に、アンケート、ダイアリースタディ、フォローアップインタビューを用いて留学先で培ったリテラシーと異文化能力をどのように卒業研究や就職活動に応用するかを調査するとともに、英語使用者、母語話者としてのアイデンティティ変容に関する考察を行った。 また、平成 26 年度のパイロットスタディを発展させ、短期および長期留学を経験し大学を卒業した研究対象者の社会適応過程を調査するケーススタディを実施し、異文化場面で培われた能力がどのように仕事に生かされるか検証した。その分析結果の一部をヨーロッパ第二言語習得学会とオーストラリア応用言語学会で発表することで、研究内容の妥当性を確認し、理論的考察の深化に努めた。

平成 29 年度は、これまで収集したデータを総合的に分析し、リテラシー、異文化能力、アイデンティティ変容がキャリア形成に与える影響を再検証した。また、第 5 回国際言語管理シンポジウムおよびニュージーランド・オーストラリア合同応用言語学会で研究結果を発表し、国際的学術誌に論文を投稿すべく執筆を開始した。

４．研究成果

全データを総合的に分析した結果、他者とのアイデンティティ交渉に取り組みつつ英語・母語リテラシーと異文化能力を高めていくことで、異文化接触現象を批判的に考察し肯定的に受け入れる能力を身につけていくことが判明し、このような異文化接触の管理が社会的場面でのリテラシー適用やアイデンティティ形成の促進にも繋がることが示された。短期留学プログラムにおける調査では、英語話者の多様性、学術ディスコースの論理構造および学術文化の違いなどを留意することで、研究対象者は第二言語リテラシー習得の複雑さと多面性を認識・評価するに至った。この留意と評価に基づき対外的な位置取りを調整し、第二言語使用者としての自己を客観的に判断するようになり、義務自己の確立へと繋がるアイデンティティ変容が起こった。さらに、研究対象者が実践コミュニティと個々の実践ネットワークにて自らの立ち位置を定めるために労力を自己投資(investment)していくことで、英語リテラシーを高め、第二言語社会化を促進する言語使用活動を習慣づけていった。また、第二言語使用者としての義務自己、理想自己を定期的に再評価することにより、異文化接触に対する姿勢や自文化と他文化を関連付けるスキルを習得し、批判的文化認識を高めていくことが示された。

交換留学中は他者とのアイデンティティ交渉に取り組みつつ英語学術リテラシーと異文化能力を高めていくことで、異文化接触現象や言語接触現象を批判的に評価する能力を身につけていった。特に、論理的推論能力、情報分析能力のさらなる向上が認められただけでなく、学術場面以外のインターアクションによるリテラシー実践が多く観察された。これらの場面において、研究対象者は進取の気性に富む自己発見的な第二言語使用者として行動する機会が増え、様々な場面で状況に応じたストラテジーを作り上げていった。また、研究対象者それぞれが有する文化的リソースや特徴、趣味を最大限に生かし、コミュニティやネットワークで求められる役割を留意・評価することで、帰属者としての立場を強固にすることも示された。さらに、他者を観察し、自らのモデルとすることで、現地でのインターアクション規範を習得していくことが可能となった。

帰国後復学し、就職活動に取り組むことにより母語自己が強く現れる一方で、第二言語使用者としての独自性を生かし、第二言語自己と母語自己を融合したハイブリッド型の自己を形成していった。特に、留学先で培った論理的談話能力をエントリーシートや面接で効果的に発揮していたことから、第二言語リテラシーが母語インターアクションに肯定的な影響を与えることが判明した。

帰国後は英語を実践する場面が急激に減少したが、一年間の海外交換留学を経験した学生としての長所および短所を客観的に考察することで、自らの第二言語自己と母語自己を再考する機会を得て、職業人としての理想自己を徐々に明瞭化していった。

また、英語での卒業論文の作成が義務付けられていた研究対象者数名は、留学中に習得した専門知識、データ収集・分析能力、論理的文章構成能力などを論文作成過程で発揮するだけではなく、留学中に数多くの英語論術課題に取り組むことで発達させたメタ認知スキルを用いて文化横断的な自己管理能力をも高めていった。

研究対象者が大学を卒業した後の社会適応過程を調査するケーススタディでは、新規コミュニティにおける新参者として正統的周辺参加を強いられる中、異文化能力を活用していくことで職業人としての義務自己の発達が促進されることが明らかになった。また、学術英語習得の際に培った論理的推論能力を適用することで、文章だけではなく口頭での日本語論証ストラテジーが促進されることを例証し、英語学術リテラシーがキャリア形成においても重要な役割を果たすことが示された。これらの研究結果に基づき、海外留学プログラムを活用し、母語と第二言語リテラシーの融合によって学術能力の促進

を図る言語横断的学術リテラシー教育の必要性が提示された。さらに、当該分野の研究成果を引き続き教育現場に還元し、言語横断的アプローチをキャリア形成の体系化にも応用することで、グローバル化社会に対応した人材育成へと繋がることも示唆された。

研究成果の一部をまとめた著書“The management of literacy and identities through study abroad from a translingual perspective”を 2018 年もしくは 2019 年に Peter Lang Publishing Company より刊行となる編著「Interests and Power in Language Management」にて発表の予定である。また、他の研究成果を国際的学術誌にて発表すべく原稿の執筆を進めている。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 2 件）

① 根本浩行、早川文人（2017)「多言語学習のモチベーションとアイデンティティ」金沢大学国際基幹教育院外国語教育系紀要『外国語教育フォーラム』11 号、65-78 頁(査読無)
② 根本浩行（2015)「社会文化的アプローチを用いたコンピュータを媒介とした第二言語習得」金沢大学外国語教育研究センター紀要『言語文化論叢』19 号、1-19 頁(査読無)

〔学会発表〕（計 9 件）

① Hiroyuki Nemoto, “Exploring identity negotiation and literacy development from a translingual perspective: Japanese university students during and after study abroad”, The Applied Linguistics Conference (ALANZ / ALAA / ALTAANZ), 2017.
② Hiroyuki Nemoto, “The management of L2 academic literacy socialization through study abroad”, Fifth International Language Management Symposium: Interests and Power in Language Management, 2017.
③ Hiroyuki Nemoto, “Exploring the relationships between identity negotiation and L2 academic literacy: A case study of Japanese university students in Australia”, Applied Linguistics Association of Australia (ALAA) Annual Conference, 2016.
④ Hiroyuki Nemoto, “The impact of identity negotiation on the development of intercultural competence in study abroad contexts”, EuroSLA 26 Conference, 2016.
⑤ Hiroyuki Nemoto,“Negotiating a sense of self through socialization into teaching profession: Teaching EFL after study abroad”, ALAA/ALANZ/ALTAANZ Conference, 2015.
⑥ Hiroyuki Nemoto, “The management of socialization processes into the teaching profession by novice Japanese EFL teachers”, 4th International Language Management Symposium, 2015.
⑦ Hiroyuki Nemoto, “The impact of study abroad experiences on socialization into teaching professions: A case study of novice Japanese EFL teachers”, The American Association for Applied Linguistics (AAAL) Annual Conference, 2015.
⑧ Hiroyuki Nemoto, “L2 academic literacy socialization in task-based intercultural computer-mediated communication”, CLaSIC, 2014.
⑨ Hiroyuki Nemoto,“Mediating L2 academic literacy socialization through online intercultural interactions”, International Association of Applied Linguistics (AILA) World Congress, 2014.

〔図書〕（計　1 件）

① Hiroyuki Nemoto, “The management of literacy and identities through study abroad from a translingual perspective”, *Interests and Power in Language Management*, Marek Nekula, Tamah Sherman, Halina Zawiszová 編, Peter Lang Publishing Company: Berlin et al.（査読有）(印刷中)

〔産業財産権〕

○出願状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織

(1)研究代表者

根本　浩行（NEMOTO, Hiroyuki）

立命館大学・文学部・教授

研究者番号：40452099

(2)研究分担者

(　　)

研究者番号：

(3)連携研究者

(　　)

研究者番号：

(4)研究協力者

(　　)